

本年度は4箇所が新たに研究協力クリニックとして加わり、合計36箇所となった。うち34箇所の検査数は25,396件と、前年と比較して13%の増加となった。これはCSWを中心に検査を行っている女性STIクリニックの検査数増加が大きいが、その他クリニック（主にSTI）でも検査数は増加していた。しかし、陽性数および陽性率は昨年を下回っており、感染例が減少しているのか、あるいは検査未受検層が拡大しているのか、今後の推移を注視する必要があると思われる。また、CSWの定期検診が中心の婦人科クリニック・女性STIクリニックでは、女性8,081人中、陽性数は0件であり、日本におけるCSWのHIV感染率の低さが示唆された。

クリニックにおける確認検査の陽性例の結果受け取り状況や保健所への届出等のフォロー状況については、おおむね良好と思われた。確認検査を受け取った人の89%は、その後の経過もフォローされており、HIV検査によって早期のHIV治療に結びついたことは、検査提供者としての役割を十分に果たしていると思われる。

迅速検査試薬については、2010年1月よりエスプラインが販売され、ダイナスクリーンとともに現在2試薬が使用可能となっている。クリニックでの使用試薬はダイナスクリーンが23箇所、エスプラインが3箇所、両方使用しているクリニックも8箇所あった。両方使用の8箇所は、受検者の感染リスクから検査までの時期によってダイナスクリーンと使い分けていた。ダイナスクリーンは第3世代試薬、エスプラインは第4世代試薬であることから、感染リスクから検査までの期間が短い場合にエスプラインを使用する傾向にあるが、2つの迅速検査試薬の陽転時期の差は5日～1週間程度であること、感染リスクより1か月未満の場合は検査で陰性になることも多いことから、判定が陰性であった場合には、3ヶ月以降の再検査について受検者に勧めること

を確認する必要があると思われた。

民間クリニックは有料にも関わらず多くの受検者が即日検査を受けており、医療機関であることの安心感や場所・受付時間帯の利便性等から、検査希望者にとって検査を受けやすい施設の一つとなっている。STIクリニックは他の性感染症に罹患している人も多く来院することから、HIVの早期発見・早期ケアに繋げるためには医療機関における即日検査の導入は非常に効果的であると思われる。今後も研究協力クリニックが無い地域への導入や感染リスクが高い層への検査誘導、作成資材「開業医だからこそできるHIV即日検査」を用いたPITCの強化等を積極的に展開していきたい。

民間クリニックの即日検査は本年度、参加施設が36となり、受検者数も着実に増加している。特に、CSWを中心に検査を行っている婦人科クリニック・女性STIクリニックでの検査数増加が大きいが、受検者8,081人中、陽性数は0件であり、日本におけるCSWのHIV感染率の低さが示唆された。民間クリニックの即日検査は有料にも関わらず多くの受検者が受けており、医療機関であることの安心感や場所・受付時間帯の利便性等から、検査希望者にとって検査を受けやすい施設の一つとなっている。STIクリニックは他の性感染症に罹患している人も多く来院することから、HIVの早期発見・早期ケアに繋げるためには医療機関における即日検査の導入は非常に効果的であると思われる。今後も研究協力クリニックが無い地域への導入や感染リスクが高い層への検査誘導、作成資材「開業医だからこそできるHIV即日検査」を用いたPITCの強化等を積極的に展開していきたい。

献血者から判明するHIV陽性者数は、2008年の107件をピークに減少傾向が継続し、2013年は63件にまで低下した。このような減少傾向が国内のHIV感染者数の減少を反映しているかどうかは不明であるが、感染リス

クのある人が献血会場に来る機会が減少していることを反映した結果でもあることが推察された。減少の要因として考えられるのは、(1) 問診票改定としてハイリスク行動から献血までの期間について、1年前から半年前へ短縮を図り、ハイリスク行動の具体的日付が記憶に残る期日となされたこと、(2) 大阪府内で公的 HIV 検査体制が安定的に稼働してきたことおよび HBs 抗原検査を含めた複数種類検査が実施されたことがあげられる。一方、首都圏では比較的受検しやすい状況がある南新宿検査・相談室が以前から活動しているが、献血へ一定数のハイリスク者が入り込んでいる。首都圏での取り組みを強化する必要がある。本年度の特記すべき事項として、輸血後 HIV 感染症が確認されたことである。検査目的の献血の可能性や問診事項への正確な回答がなされていなかったことなどが課題となったため、パンフレットの「責任ある献血」をより具体的に記載し直すとともに、HIV 陽性の通知はしていないことなどが明記された。また、献血会場の入り口や受付に「責任ある献血」が一目で分かるようなポスターなどが設置された。なお、今回の輸血後 HIV 感染症例が 11 月末に報道された後、12 月献血の HIV 検査陽性者はいなかったことから、検査目的の献血で問診へ正しく回答していない献血者が少なからずいることが推測された。

当研究班の研究はわが国の HIV 検査体制の充実に大きく貢献していると考えられる。特に、ウェブサイト「HIV 検査・相談マップ」の運営、保健所等のアンケート調査、郵送検査会社のアンケート調査、民間クリニックでの即日検査導入は非常に重要であり、今後も内容を適宜変更させながら継続すべきである。一方、現在の国際的課題である HIV/エイズの新しい世代の実現を目指すためには新しい検査方式を取り入れて、検査体制の飛躍的な向上を図る必要がある。その中には、医療者主導の検査推奨、自己検査キットの薬局・インター

ネット販売、より精度が高く簡便で安価な検査アルゴリズムの確立などが含まれるであろう。このような課題に対応するための研究が今後推進する必要がある。

D. 結論

HIV 感染者の早期診断、早期治療を推進し、HIV 感染流行の速やかな終息をはかるため、HIV 検査相談に関係する様々な課題について包括的に研究を進め、多くの具体的な成果を上げることができた。今後も利用者が安心して受検できる HIV 検査相談体制を構築できるよう研究にまい進していきたい。

E. 研究発表

論文発表

1. Kondo M, Lemey P, Sano T, Itoda I, Yoshimura Y, Sagara H, Tachikawa N, Yamanaka K, Iwamuro S, Matano T, Imai M, Kato S, Takebe Y. Emergence in Japan of an HIV-1 variant associated with transmission among men who have sex with men (MSM) in China: first indication of the International Dissemination of the Chinese MSM lineage. *J Virol.* 87(10):5351-61, 2013.
2. Miyoshi, M., Komagome, R., Ishida, S., Nagano, H., Takahashi, K. and Okano, M. Genomic characterization of echovirus 6 causing aseptic meningitis in Hokkaido, Japan: a novel cluster in non-structural protein coding region of human enterovirus B. *Archives of Virology.* 158(4): 775-784, 2013.
3. Ken Shimuta, Magnus Unemo, Shu-ichi Nakayama, Tomoko Ishihara, Takuya Kawahata, and Makoto Ohnishi, on behalf of the Antibiotic-Resistant Gonorrhoea Study Group. Antimicrobial resistance and molecular typing of *Neisseria gonorrhoeae* isolates in Kyoto and Osaka, Japan in 2010-2012 - intensified surveillance after identification of

- the first high-level ceftriaxone resistant strain H041. *Antimicrob. Agents Chemother.* 57(11) 5225-5232, 2013.
4. Kojima Y, Kawahata T, Mori H, Furubayashi K, Taniguchi Y, Iwasa A, Taniguchi K, Kimura H, Komano J. Prevalence and epidemiological traits of HIV infections in populations with high-risk behaviours as revealed by genetic analysis of HBV. *Epidemiol Infect.* 141 2410-2417, 2013.
 5. Kaneko H, Tsuboi H. Analysis on Awareness of Functional Dyspepsia and Rome Criteria Among Japanese Internists by the Self-administered Questionnaires. *J Neurogastroenterol Motil.* 20(1): 2014 (in press)
 6. Takahashi N, Tsuboi H, Yoshida N, Tanimoto T, Khan M, Kimura K. Investigation into the Antinfluenza Agent Oseltamivir Distributed via the Internet in Japan. 47(6): 699-705, 2013.
 7. Khojah HMJ, Pallos H, Yoshida N, Akazawa M, Tsuboi H, Kimura K. The Quality of Medicines in Community Pharmacies in Riyadh, Saudi Arabia: A Lot Quality Assurance Sampling (LQAS)-Based Survey. *Pharmacol Pharmacy.* 4: 511-9, 2013
 8. Khojah HMJ, Pallos H, Tsuboi H, Yoshida N, Abou-Auda HS, Kimura K. Adherence of Community Pharmacies in Riyadh, Saudi Arabia, to Optimal Conditions for Keeping and Selling Good-Quality Medicines. *Pharmacol Pharmacy.* 4:431-7, 2013
 9. Tsuboi H, Watanabe M, Kobayashi F, Kimura K, Kinae N. Associations of depressive symptoms with serum proportions of palmitic and arachidonic acids, and α -tocopherol effects among male population--a preliminary study. *Clin Nutr* 32(2): 289-93, 2013
 10. Shibata M, Takahashi M, Yoshino M, Kuwahara T, Nomura T, Yokomaku Y, Sugiura W. Development and application of a simple LC-MS method for the determination of plasma rilpivirine (TMC-278) concentrations. *The journal of medical investigation : JMI.* 60(1-2):35-40. 2013.
 11. Saito A, Nomaguchi M, Kono K, Iwatani Y, Yokoyama M, Yasutomi Y, Sato H, Shioda T, Sugiura W, Matano T, Adachi A, Nakayama EE, Akari H. TRIM5 genotypes in cynomolgus monkeys primarily influence inter-individual diversity in susceptibility to monkey-tropic human immunodeficiency virus type 1. *The Journal of general virology.* 94(Pt 6):1318-1324. 2013.
 12. Nii-Trebi NI, Ibe S, Barnor JS, Ishikawa K, Brandful JA, Ofori SB, Yamaoka S, Ampofo WK, Sugiura W. HIV-1 Drug-Resistance Surveillance among Treatment-Experienced and -Naive Patients after the Implementation of Antiretroviral Therapy in Ghana. *PLoS one.* 8(8):e71972. 2013.
 13. Katano H, Yokomaku Y, Fukumoto H, Kanno T, Nakayama T, Shingae A, Sugiura W, Ichikawa S, Yasuoka A. Seroprevalence of Kaposi's sarcoma-associated herpesvirus among men who have sex with men in Japan. *Journal of medical virology.* 85(6):1046-1052. 2013.
 14. Jahanbakhsh F, Ibe S, Hattori J, Monavari SH, Matsuda M, Maejima M, Iwatani Y, Memarnejadian A, Keyvani H, Azadmanesh K, Sugiura W. Molecular epidemiology of HIV type 1 infection in Iran: genomic evidence of CRF35_AD predominance and CRF01_AE infection among individuals associated with injection drug use. *AIDS research and human retroviruses.* 29(1):198-203. 2013.
 15. Jahanbakhsh F, Hattori J, Matsuda M, Ibe S, Monavari SH, Memarnejadian A,

- Aghasadeghi MR, Mostafavi E, Mohraz M, Jabbari H, Kamali K, Keyvani H, Azadmanesh K, Sugiura W. Prevalence of transmitted HIV drug resistance in Iran between 2010 and 2011. *PloS one*. 8(4):e61864. 2013.
16. Gatanaga H, Murakoshi H, Hachiya A, Hayashida T, Chikata T, Ode H, Tsuchiya K, Sugiura W, Takiguchi M, Oka S. Naturally Selected Rilpivirine-Resistant HIV-1 Variants by Host Cellular Immunity. *Clinical infectious diseases : an official publication of the Infectious Diseases Society of America*. 57(7):1051-1055. 2013.
 17. 井戸田一朗、星野慎二、沢田貴志、佐野貴子、上田敦久、加藤真吾、今井光信. コミュニティセンター「かながわレインボーセンター SHIP」の夜間 HIV/STIs 即日検査相談を受けた MSM (men who have sex with men) の特徴及び罹患率. *日本公衆衛生雑誌* 60(5):253-261, 2013.
 18. 佐野貴子、近藤真規子、吉村幸浩、立川夏夫、相楽裕子、井戸田一朗、山中晃、須藤弘二、加藤真吾、今井光信. HIV-1 p24 抗原検出感度が向上した改良型 HIV 抗原抗体同時検出試薬の検討. *感染症学雑誌* 87(4):415-423, 2013.
 19. 三宅啓文、島田信子、高野弘紀、長島真美、宮川明子、林 志直、貞升健志、甲斐明美: 東京都内の HIV 検査陽性例における梅毒・クラミジア抗体検査成績、東京都健康安全研究センター年報、64、2013.
 20. 長島真美、宮川明子、新開敬行、林 志直、貞升健志、甲斐明美: 東京都における HIV 検査数と陽性例の解析、病原微生物検出状況、34、254-255、2013.
 21. 川畑拓也、長島真美、貞升健志、小島洋子、森 治代: HIV 急性感染期の診断における第 4 世代迅速検査試薬の性能評価、*感染症誌*、87、431-434、2013.
 22. 矢永由里子. がんとうエイズの心理臨床 (矢永由里子・小池真規子編). 創元社、p1-8, p199-202, p203-215, 2013
 23. 武部豊、近藤真規子: 中国における男性同性愛者 (MSM) 間の HIV-1 流行の急速な拡大と我が国への流行波及に関する知見: 病原微生物検出情報、34 (3)、72-73、2013.
- 学会発表
1. Hattori J, Gatanaga H, Kondo M, Sadamasu K, Kato S, Mori H, Minami R, Uchida K, Yokomaku Y, Sugiura W. Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. Comparison of patient characteristics and trends of transmitted drug resistant HIV between recent and long-term infection among treatment-naïve HIV-1-infected populations in Japan. 7th IAS Conference on HIV Pathogenesis. Treatment and Prevention. Kuala Lumpur, Malaysia, June 30-July 3, 2013.
 2. 加藤真吾、須藤弘二: 病院における HIV を含む感染症検査の実態調査、第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、2013 年 11 月、熊本
 3. 矢永由里子、長谷川直樹、岩田敏、加藤真吾: 病院での HIV 検査東欧の実際、現場の教育・研修のニーズの内容把握と医療者主体の検査のあり方の検討、第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、2013 年 11 月、熊本
 4. 佐野貴子、井戸田一朗、川畑拓也、千々和勝己、須藤弘二、近藤真規子、今井光信、加藤真吾: 民間クリニックにおける HIV 即日検査の導入支援および結果解析、第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、2013 年 11 月、熊本
 5. 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾: HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査 (2012)、第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、2013 年 11 月、熊本
 6. 星野慎二、井戸田一朗、日高庸晴、加藤真吾、白阪琢磨: MSM 商業施設の訪問経験がない若年層を対象にした行政・教育・医療連携による多目的支援施設のあり方の検討、第 27 回日本エイズ学会学術集

- 会・総会、2013年11月、熊本
7. 山田瑛子、高木律男、田邊嘉也、永井孝宏、村山正晃、池野良、児玉泰光、親泊あいみ、須藤弘二、戸蒔祐子、藤原宏、長谷川直樹、加藤真吾：抗 HIV 薬のだ液中薬剤濃度の検討、第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、2013 年 11 月、熊本
 8. 近藤真規子、佐野貴子、井戸田一朗、吉村幸浩、立川夏夫、山中晃、岩室紳也、今井光信、武部豊、加藤真吾：中国の MSM 間で大流行している HIV-1 CRF01_AE variant の日本への流入、第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、2013 年 11 月、熊本
 9. 重見麗、服部純子、蜂谷敦子、瀧永博之、渡邊大、長島真美、貞升健志、近藤真規子、南留美、吉田繁、森治代、内田和江、椎野禎一郎、加藤真吾、千葉仁志、伊藤俊広、佐藤武幸、上田敦久、石ヶ坪良明、古賀一郎、太田康男、山元泰之、福武勝幸、古賀道子、岩本愛吉、西澤雅子、岡慎一、松田昌和、林田庸総、横幕能行、上田幹夫、大家正義、田邊嘉也、白阪琢磨、小島洋子、藤井輝久、高田昇、高田清式、山本政弘、松下修三、藤田次郎、武山正男、杉浦互：新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の動向、第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、2013 年 11 月、熊本
 10. 吉田繁、服部純子、松田昌和、橋本修、岡田清美、和山行正、加藤真吾、伊部史朗、巽正志、杉浦互：2012 年度 HIV 薬剤耐性検査外部精度管理の報告、第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、2013 年 11 月、熊本
 11. 丹羽一貴、山元泰之、近澤悠志、備後真登、清田育男、四本美保子、大瀧学、尾形享一、萩原剛、鈴木隆史、天野景裕、高谷紗帆、鯉渕智彦、岩本愛吉、親泊あいみ、加藤真吾、杉浦互、福武勝幸：「診療における HIV-1/2 感染症の診断ガイドライン 2008（日本エイズ学会・日本臨床検査医学会標準推奨法）」逸脱症例、第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、2013 年 11 月、熊本
 12. 山崎さやか、近藤真規子、加藤真吾：リアルタイム PCR を用いた HIV-1 と HIV-2 の同時検査法の開発、第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、2013 年 11 月、熊本
 13. 川畑拓也、長島真美、貞升健志、小島洋子、森 治代：HIV 急性感染期の診断における第 4 世代 HIV 迅速検査試薬エスプライン HIV Ag/Ab の性能評価、第 27 回日本エイズ学会学術集会、2013、熊本
 14. 長島真美、宮川明子、新開敬行、林志直、貞升健志、甲斐明美：東京都における HIV 検査陽性例より検出された T215X-revertant の解析、第 27 回日本エイズ学会学術集会、2013、熊本
 15. 松浦基夫、大田加与、西田幸司、藤本卓司、川畑拓也、森 治代、小島洋子。急性感染後半年以上にわたり抗体陽性とならず、急速に免疫不全に陥った一症例。第 27 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2013
 16. 川畑拓也。HIV 検査の基礎知識。エイズ予防財団 平成 25 年度 HIV 検査相談研修会、大阪、2013
 17. 佐野貴子、井戸田一朗、川畑拓也、千々和勝己、須藤弘二、近藤真規子、今井光信、加藤真吾、研究協力民間クリニックの先生方。民間クリニックにおける HIV 即日検査の導入支援および結果解析。第 27 回日本エイズ学会、熊本、2013
 18. 川畑拓也、長島真美、貞升健志、小島洋子、森 治代。HIV 急性感染期の診断における第 4 世代 HIV 迅速検査試薬 エスプライン HIV Ag/Ab の性能評価。第 27 回日本エイズ学会、熊本、2013
 19. 川畑拓也、後藤大輔、町登志雄、鬼塚哲郎、塩野徳史、市川誠一、岳中美江、岩佐 厚、亀岡 博、菅野展史、高田昌彦、田端運久、中村幸生、古林敬一、小島洋子、森 治代。診療所を窓口とした MSM 向け HIV 検査普及プログラムの改良に向けた検討。第 27 回日本エイズ学会、熊本、2013
 20. 松浦基夫、大田加与、大成功一、藤本卓司、川畑拓也、森 治代、小島洋子。急性感染後半年以上にわたり抗体陽性とならず、急速に免疫不全に陥った一症例。第 27 回日本エイズ学会、熊本、2013

21. 長島真美、宮川明子、新開敬行、林志直、貞升健志、甲斐明美、小島洋子、川畑拓也、森治代. 東京都における HIV 検査陽性例より検出された T215X-revertant の解析. 第 27 回日本エイズ学会、熊本、2013
22. 松浦基夫、川畑仁貴、大田加与、大成功一、藤本卓司、川畑拓也、森治代、小島洋子. HIV 感染初期に HIV-RNA が 107 copies/mL を超えた 5 症例の臨床的特徴. 第 27 回日本エイズ学会、熊本、2013
23. 川畑拓也. HIV/AIDS の発生動向(2013 年). 関西 HIV 臨床カンファレンス第 50 回講演会、大阪、2014
24. 井戸田一朗、星野慎二、佐野貴子、近藤真規子、金子典代、ハッテン場における HIV 感染リスク低減に向けた意識行動調査. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本市、2013
25. 井戸田一朗、加藤康幸、青柳東代、相崎英樹、脇田隆宇、しらかば診療所で経験した、HIV 陽性者における急性 C 型肝炎の集団発生について. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本市、2013
26. 星野慎二、井戸田一朗、上田敦久、相楽裕子、佐伯理恵、鈴木宣子、平岡真理子、川崎市における MSM を対象とした無料 HIV/STIs 検査相談結果について. 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本市、2013
27. 宮田 勝、高木純一郎、能美初美、山本裕佳、上田幹夫、山田三枝子、辻 典子、溝部潤子、前田憲昭：拠点病院と歯科診療所との連携に関する考察 第 3 報—研修会の現状と歯科医療体制のネットワークの取り組み—、第 26 回日本エイズ学会、熊本、2013 年 11 月
28. 永井考宏、児玉泰光、山田瑛子、村山正晃、池野 良、田邊嘉也、高木律男：新潟大学医歯学総合病院歯科における HIV 感染患者の臨床的検討、第 26 回日本エイズ学会、熊本、2013 年 11 月
29. 矢永由里子、山田里佳、谷口晴記他. 妊婦 HIV スクリーニング検査の調査による検査時対応の現状と課題の検討. 第 27 回日本エイズ学術集会・総会、平成 25 年 11 月 22 日、熊本
30. Kitamura S, Ode H, Nakashima M, Imahashi M, Naganawa Y, Kurosawa T, Yokomaku Y, Yamane T, Watanabe N, Suzuki A, Sugiura W, and Iwatani Y. The crystal structure of APOBEC3C including HIV-1 Vif-binding interface. 4th International Symposium on Diffraction Structural Biology. Nagoya, May 26-29, 2013.
31. 杉浦互. 「H I V 治療の進歩と薬剤耐性H I V の動向」 大阪 2013 年 6 月 1 日
32. Shiino T, Sadamasu K, Hattori J, Nagashima M, Iwatani Y, Yokomaku Y, Sugiura W. Molecular phylodynamic analysis of drug resistance transmissions in HIV-1 subtype B in Japan. International Workshop on HIV & Hepatitis Virus Drug Resistance and Curative Strategies. Toronto, Canada, June 4-8, 2013.
33. Matsuoka K, Tanabe F, Shigemi U, Hattori J, Ode H, Masaoka T, Morishita R, Sawasaki T, Yokomaku Y, Iwatani Y, Sugiura W. Complexity of cross-resistance mutation patterns in diarylpyrimidine non-nucleoside reverse transcriptase inhibitors rilpivirine and etravirine in clinical isolates. International Workshop on HIV & Hepatitis Virus Drug Resistance and Curative Strategies. Toronto, Canada, June 4- 8, 2013.
34. 北村紳悟, 大出裕高, 中島雅晶, 今橋真弓, 長縄由里子, 黒沢哲平, 横幕能行, 山根隆, 渡邊信久, 鈴木淳巨, 杉浦互, 岩谷靖雅. ヒト抗レトロウイルス因子 APOBEC3 ファミリー間における HIV-1 Vif 結合インターフェイスの構造比較 第 13 回日本蛋白質科学会年会 鳥取 2013 年 6 月 12-14 日
35. Imahashi M, Izumi T, Imamura J, Matsuoka K, Koyanagi Y, Takaori-Kondo A, Yokomaku Y, Naoe T, Sugiura W, Iwatani Y. A population-based matched-cohort study on insertion/deletion polymorphism of the

- APOBEC3B gene and risk of HIV-1. 7th IAS Conference on HIV Pathogenesis, Treatment and Prevention. Kuala Lumpur, Malaysia, June 30-July 3, 2013.
36. 今橋真弓、泉泰輔、渡邊大、今村淳治、松岡和弘、佐藤佳、小柳義夫、高折晃史、横幕能行、白阪琢磨、杉浦互、岩谷靖雅、直江知樹. HIV-1 感染伝播・病勢に対する APOBEC3B 遺伝子型の影響に関する解析 第 15 回白馬シンポジウム 名古屋 2013 年 7 月 19-20 日
 37. 大出裕高、松岡和弘、松田昌和、根本理子、蜂谷敦子、横幕能行、岩谷靖雅、杉浦互. 次世代シーケンサー Illumina MiSeq による HIV ゲノム解析系の構築 第 15 回白馬シンポジウム 名古屋 2013 年 7 月 19-20 日
 38. 松岡和弘、重見麗、大出裕高、蜂谷敦子、服部純子、森下了、澤崎達也、横幕能行、岩谷靖雅、杉浦互. HIV-1 臨床分離株を用いた Rilpivirine 及び Etravirine に対する交差耐性変異に関する酵素学的な解析 第 15 回白馬シンポジウム 名古屋 2013 年 7 月 19-20 日
 39. 中島雅晶、北村紳悟、黒澤哲平、大出裕高、河村高志、今橋真弓、長縄由里子、横幕能行、渡邊信久、杉浦互、岩谷靖雅. HIV-1 Vif 結合領域を持つ APOBEC3F C 末端側ドメインの構造解析 第 15 回白馬シンポジウム 名古屋 2013 年 7 月 19-20 日
 40. Kitamura S, Ode H, Nakashima M, Imahashi M, Naganawa Y, Kurosawa T, Yokomaku Y, Yamane T, Watanabe N, Suzuki A, Sugiura W, & Iwatani Y. Crystal structure of human APOBEC3C and HIV-1 Vif-binding interface. American Crystallographic Association Annual Meeting. Hawaii, USA, July 20-24, 2013.
 41. Sugiura W. HIV Drug Resistance. Korea, Sep 24-25, 2013.
 42. Shiino T, Sadamasu K, Nagashima M, Hattori J, Iwatani Y, Yokomaku Y, Sugiura W. Nationwide HIV-1 transmission dynamics estimated by molecular evolutionary analysis in Japan. 8th International Workshop on HIV Transmission-Principles of Intervention. Barcelona, Spain, Oct 4-5, 2013.
 43. Ode H, Sugiura W, Yokomaku Y. Molecular dynamics simulations of HIV-1 protease-inhibitor complex with modified charges for catalytic aspartate. 第 51 回日本生物物理学会年会 京都 2013 年 10 月 28-30 日
 44. 今橋真弓、泉泰輔、渡邊大、今村淳治、松岡和弘、佐藤桂、金子典代、市川誠一、小柳義夫、高折晃史、内海眞、横幕能行、白阪琢磨、直江知樹、岩谷靖雅、杉浦互. HIV-1 感染伝播・病勢に対する APOBEC3B 遺伝子型の影響に関する解析 第 67 回国立病院総合医学会 金沢 2013 年 11 月 8-9 日
 45. 齊藤暁、大附寛幸、東濃篤徳、鈴木紗織、松田健太、高橋尚史、松岡佐織、岩谷靖雅、杉浦互、野間口雅子、足立昭夫、保富康宏、俣野哲朗、三浦智行、明里宏文. CCR5 指向性を示す新規サル指向性 HIV-1 はサル個体に持続感染する 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 熊本 2013 年 11 月 20-22 日
 46. 大出裕高、松岡和弘、松田昌和、根本理子、蜂谷敦子、横幕能行、岩谷靖雅、杉浦互. 次世代シーケンサー Illumina MiSeq による HIV ゲノム配列の網羅的解析システムの構築 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 熊本 2013 年 11 月 20-22 日
 47. Michailidis, Yee Tsuey Ong, 岡慎一, Michael A. Parniak, 前島雅美, 松岡和弘, 岩谷靖雅. KyeongEun Lee, Vineet N. KewalRamani, Kamalendra Singh, 杉浦互, Stefan G. Sarafianos カプシドと核膜移行を標的とした低分子化合物の開発とその作用機序の解明 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 熊本 2013 年 11 月 20-22 日
 48. 保坂真澄、藤崎誠一郎、服部純子、椎野禎一郎、松田昌和、蜂谷敦子、重見麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、濱口元洋、横幕能行、杉浦互. 東海地域で見いだされた新

- たな CRF01_AE/B リコンビナント HIV-1 株
第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会
熊本 2013 年 11 月 20-22 日
49. 中島雅晶、北村紳悟、大出裕高、河村高志、今橋真弓、長縄由里子、黒沢哲平、横幕能行、渡邊信久、杉浦互、岩谷靖雅. APOBEC3F C 末端側ドメインの構造解析と HIV-1 Vif 結合インターフェイス 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 熊本 2013 年 11 月 20-22 日
 50. 齊藤暁、大附寛幸、東濃篤徳、鈴木紗織、松田健太、高橋尚史、松岡佐織、岩谷靖雅、杉浦互、野間口雅子、足立昭夫、保富康宏、俣野哲朗、三浦智行、明里宏文. CCR5 指向性を示す新規サル指向性 HIV-1 はサル個体に持続感染する 第 61 回日本ウイルス学会学術集会 神戸 2013 年 11 月 10-12 日
 51. 今橋真弓、泉泰輔、渡邊大、今村淳治、松岡和弘、正岡崇志、佐藤桂、金子典代、市川誠一、小柳義夫、高折晃史、内海眞、横幕能行、白阪琢磨、直江知樹、杉浦互、岩谷靖雅. 宿主防御因子 APOBEC3B の遺伝子欠損による HIV-1 感染伝播・病勢への影響に関する研究 第 61 回日本ウイルス学会学術集会 神戸 2013 年 11 月 10-12 日
 52. 蜂谷敦子、Christie Pautler、Jennifer Moran、Sanath Janaka、Karen A. Kirby、Eleftherios Michailidis、Yee Tsuey Ong、岡慎一、Michael A. Parniak、前島雅美、松岡和弘、岩谷靖雅、KyeongEun Lee、Vineet N. KewalRamani、Kamalendra Singh、杉浦 互、Stefan G. Sarafianos. カプシドと核膜移行を標的とした低分子化合物の開発とその作用機序の解明 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会 熊本 2013 年 11 月 20-22 日
 53. 大出裕高、松岡和弘、松田昌和、根本理子、蜂谷敦子、横幕能行、岩谷靖雅、杉浦互. 次世代シーケンサー Illumina MiSeq による微少集族薬剤耐性 HIV の網羅的検出システムの構築 第 61 回日本ウイルス学会学術集会 神戸 2013 年 11 月 10-12 日
 54. 北村紳悟、中島雅晶、黒沢哲平、大出裕高、河村高志、今橋真弓、長縄由里子、真野由有、横幕能行、渡邊信久、杉浦互、岩谷靖雅. 抗 HIV-1 宿主因子 APOBEC3F の Vif 結合領域に関する構造学的解析 第 61 回日本ウイルス学会学術集会 神戸 2013 年 11 月 10-12 日
 55. 中島雅晶、北村紳悟、黒沢哲平、大出裕高、河村高志、真野由有、今橋真弓、長縄由里子、横幕能行、渡邊信久、杉浦互、岩谷靖雅. APOBEC3F タンパク質上の HIV-1 Vif 結合領域の同定と構造学的解析 第 36 回日本分子生物学会 神戸 2013 年 12 月 3-6 日
 56. 細羽恵理子、鈴木匡弘、杉浦互. 国内で分離された *Acinetobacter baumannii* の MLST による系統解析 第 25 回日本臨床微生物学会 名古屋 2014 年 2 月 1-2 日
 57. 武部豊、近藤真規子、内藤雄樹：中国における HIV-1 CRF01_AE 流行を形成するファウンダー株の同定：我が国および周辺アジア諸国における流行との相互関係の解析、第 61 回日本ウイルス学会学術集会（2013 年 11 月 10～12 日、神戸）。
 58. 鈴木理恵子、渡邊寿美、佐野貴子、近藤真規子：神奈川県における風疹ウイルス検出状況と遺伝子解析、第 61 回日本ウイルス学会学術集会（2013 年 11 月 10～12 日、神戸）。
 59. 武部豊、近藤真規子：中国における CRF01_AE 流行の動因となっているファウンダー株の分析：我が国および周辺アジア諸国における流行との相互関係、第 27 回日本エイズ学会学術集会（2013 年 11 月 20～22 日、熊本）。
 60. 渡邊寿美、佐野貴子、伊達佳美、近藤真規子、黒木俊郎、2012/2013 シーズンの神奈川県におけるインフルエンザ検出状況、第 28 回関東甲信静支部ウイルス研究部会、（2013 年 9 月 26～27 日、千葉市）
 61. 鈴木理恵子、木村睦未、近藤真規子、黒木俊郎、神奈川県における麻疹疑い患者からの風疹ウイルス検出状況と遺伝子解析、第 28 回関東甲信静支部ウイルス研究部会、（2013 年 9 月 26～27 日、千葉市）

Ⅱ. 分担研究報告

1. HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査 (H25 年度)

研究分担者	今井光信	(田園調布学園大学)
研究協力者	近藤真規子	(神奈川県衛生研究所微生物部)
	佐野貴子	(神奈川県衛生研究所微生物部)
	大野理恵	(神奈川県衛生研究所微生物部 HIV 研究班)
	岡部英男	(神奈川県衛生研究所)
	須藤弘二	(慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室)
	加藤真吾	(慶應義塾大学医学部微生物部・免疫学教室)

研究概要

保健所等における HIV 検査体制の実状を把握し、また、その充実を計るため、全国の保健所等 HIV 無料匿名検査実施施設を対象とした HIV 検査相談の検査・相談体制に関するアンケート調査を実施した。

今回の全国保健所アンケート調査においては、全国の保健所等の協力により、対象とした 579 箇所（保健所及びその支所等）中、493 施設（85%）から回答を得ることができた。

アンケート結果では、平成 25 年の 1 年間に、回答の得られた 493 施設で 93,408 件の HIV 検査が実施され、240 件（0.26%）が陽性であった。陽性 240 件中 224 件（93%）が保健所等に再来所して陽性の結果を受け取っており、また、185 件（77%）については、その後医療機関に受診していることが保健所等において確認されていることが分かった。また、感染症法に基づく届出に関しては、平成 25 年に陽性と分かった 240 件中の 146 件（60%）については自施設からの報告が行われていることが分かった。

即日検査の実施状況に関しては、平成 25 年に即日検査を実施した保健所は 337 施設（68%）と昨年に比べ微増した。また夜間・土日検査に関しては、夜間検査が 182 施設（37%）で、土日検査が 63 施設（13%）と、昨年とほぼ同じであった。全国的にみると検査相談の実施形態に関してはほぼ定常状態にあることが分かった。

保健所以外の特設の検査相談施設を対象としたアンケート調査では、対象とした 23 施設中 18 施設から回答が得られ、平成 25 年の 1 年間の検査件数は 23,318 件で陽性件数は 142（0.6%）であった。この中で陽性の結果を本人に伝えられたのは 132 件（93%）、その後医療機関に受診したことを確認できた件数は 112（79%）であった。

また、本アンケート調査を開始する一つのきっかけでもあった検査結果の誤通知に関しては、平成 25 年には HIV 検査と STI 検査等で 5 件の誤通知事例があった。誤通知の原因は、結果記入の際の記入ミスが 2 件、受検者に別の受検者の結果を通知してしまった例が 3 件であった。HIV 検査と肝炎検査、梅毒検査、クラミジア検査等と複数の検査が並行して行われていること、また、匿名検査のため受検者の本人確認と検査結果の照合に特別の工夫が必要なことなどが誤通知の要因となっていた。

誤通知のあった保健所では、結果の記載方法の見直しや、受検者番号と結果票の番号の照合方法の見直し等の改善策により再発防止に努めていることが分かった。HIV 検査とともに他の性感染症検査を行う保健所も多く、受検者にとっては利便性が高まる一方、異なる種類の検査が並行して進行するため、検査相談の業務がより複雑化し、誤通知のリスクも高まっているものと思われる。誤通知の防止のためには、システムの見直しとともに、これら事例を参考に一人一人のより一層の注意深い対応が必要である。

本年度は、平成 24 年度「保健所における HIV 検査体制に関する全国調査」のアンケート調査で妊婦の HIV 検査相談があったと回答のあった保健所 53 箇所に対して調査票を送り、妊婦が保健所で HIV の相談・検査を受けた理由と経緯について調査した。その結果、保健所で HIV 検査相談を受けた理由としては、他の感染症に感染しているためも含め、HIV 感染に対する心配によるものがその多くを占めていたが、医療機関で保健所の検査を受けるよう勧められた例も見られた。妊婦は産科医療機関において HIV 検査を受ける機会があるが、HIV の感染不安から保健所での検査・相談を希望する例が少なからずあり妊婦の場合においても、保健所が、その感染不安に対応するための HIV 検査相談検査機関として重要な役割を果たしていることが分かった。また、産科医療機関において、HIV スクリーニング検査やスクリーニング検査陽性後の確認検査を保健所で受けるよう妊婦に勧める事例が現在でも少数ながら存在していることも分かった。妊婦における HIV 感染の状況や保健所及び産科医療機関における妊婦の HIV 感染不安への対応について、今後ともアンケート等により状況を把握し注視していく必要があると思われる。

A. 目的

保健所等における HIV 検査体制の実状を経年的に把握し、その充実を計るため、全国の保健所等を対象に HIV 検査相談の検査体制・相談体制に関するアンケート調査を実施した。

B. 方法

全国の保健所およびその支所等 579 箇所の HIV 検査相談施設と南新宿 HIV 検査相談施設等 23 箇所の特設 HIV 検査相談施設を対象に、平成 26 年 1 月 4 日に HIV 検査相談 (H25 年) に関するアンケート調査票 (資料 1 参照) を郵送し、平成 26 年 1 月 24 日を締め切り日として、返送用封筒によりアンケート調査票を回収し、結果の解析を行った。

また、平成 24 年度「保健所における HIV 検査体制に関する全国調査」のアンケート調査に回答した保健所 481 施設のうち、設問 2.

④「H. 昨年 1 年間に妊婦さんからの相談事例はありましたか？」あるいは「I. 昨年 1 年間に妊婦さんの検査受検はありましたか？」に「ある」と回答した保健所 53 箇所に対して調査票を送り、妊婦が保健所で HIV の相談・検査を受けた理由と経緯について調査した。

C. 結果

今回のアンケート調査では、全国の保健所等の 579 施設中 493 施設からアンケート結果が返送され、アンケートの回収率は 85%であった。また、特設検査相談機関については、対象とした 23 施設中 18 施設 (78%) からアンケート結果を回収できた。

① 保健所における HIV 検査相談の実施率

回答のあった 493 保健所等施設の全てが HIV 検査相談を実施していた。

② HIV 検査総数と陽性率

上記保健所等施設で平成 25 年に行った HIV 検査相談の検査総数は 93,408 件で、陽性例は 240 例 (0.26%) であった。

③ HIV 検査陽性者の結果通知と医療機関受診の把握率 (図 2、3)

HIV 検査陽性の 240 例において、受検者が陽性の確認検査を受け取りに再来所したのは 224 例 (93%) であった。この中で医療機関に受診したことが確認されている事例は 185 例であり、陽性結果を伝えられた 224 例中の 83%、全陽性 240 例中の 77%であった。

④ HIV の確認検査陽性例の報告

HIV の確認検査陽性例の感染症法に基づく届け出に関しては、平成 25 年に陽性と分かった 240 件中の 146 件 (61%) については自施設からの報告が行われており、残りは紹介先の

医療機関に届け出を依頼していることが分かった。

⑤ HIV 検査以外の性感染症検査について

HIV 検査以外の性感染症検査に関しては422 施設 (86%) の保健所等で実施しており、その内訳は、梅毒検査 320 施設 (76%)、クラミジア抗体 209 施設 (50%)、クラミジア抗原 113 施設 (27%)、淋菌 48 施設 (11%)、B 型肝炎 333 施設 (79%)、C 型肝炎 325 施設 (77%) であった。梅毒検査及び B 型肝炎と C 型肝炎のウイルス検査に関しては、70%を上回る施設で実施されていることが分かった。

⑥ 即日検査の実施状況

即日検査のみ実施している施設が 212 施設 (43%)、即日検査と通常検査を行っている施設が 125 施設 (25%)、通常検査のみ行っている施設は 156 施設 (32%) であり、68%の施設が即日検査を導入していることが分かった。

⑦ 土曜・日曜・夜間検査の実施状況

HIV 検査相談を実施している全国 493 保健所で、平日・昼間にのみ検査を行っている保健所が 248 施設 (50%)、平日夜間検査を行っている保健所が 182 施設 (37%)、土曜・日曜検査を行っている保健所が 63 施設 (13%) であり、その比率はここ数年ほぼ一定であった。

⑧ 検査法と実施時間の組み合わせ

検査法と実施時間との組み合わせでは、通常平日の検査は 116 施設 (24%)、通常夜間が 35 施設 (7%)、通常土日が 5 施設 (1%) であり、即日平日が 102 施設 (21%)、即日夜間が 84 施設 (17%)、即日土日が 26 施設 (5%) であり、両検査平日が 30 施設 (6%)、両検査夜間が 63 施設 (13%)、両検査土日が 32 施設 (7%) であった。これらの結果から、多くの検査施設が昨年同様、より利便性の高い検査相談の提供に努めていることが分かった。

⑨ 年間検査件数別の保健所分布

年間検査件数別の保健所分布に関しては、年間検査件数が 50 件未満の保健所数は 177 箇所 (36%)、50 件以上 100 件未満は 91 箇所

(18%)、100 件以上 200 件未満は 98 箇所 (20%)、200 件以上 500 件未満は 84 箇所 (17%)、500 件以上 1000 件未満は 31 箇所 (6%)、1000 件以上は 12 箇所 (2%) であった。

⑩ 年間検査件数別の保健所数とその検査数

年間検査件数が 200 件以上の保健所数は 127 箇所 (26%) であったが、そこで実施された検査件数は検査総数の 74%を占めており、また、年間 500 件以上の施設は 9%であるが、それら施設における検査数は全検査数の 46%を占めていた。これらの比率は昨年とほぼ同様であった。

⑪ 年間検査件数別の陽性率

保健所等の HIV 検査相談における陽性率は、平均では 0.26%であり、年間検査数別に調べると、検査数 50 件未満の保健所では 0.10%、検査数 50-99 件の保健所では 0.17%、100-199 件の施設では 0.18%、200-499 件の施設では 0.24%、500-999 件の施設では 0.29%、1000 件以上の施設では 0.35%と、検査数の多い施設ほど陽性率も高くなる傾向がみられた。

⑫ 予約制の有無

予約制の有無に関しては通常検査の実施設の 58%、即日検査の実施設の 81%が予約制を実施しており、またその場合、通常検査では 37%、即日検査では 73%が上限をもうけていた。即日検査では検査の混乱を防ぐため、予め上限数を設定した予約制を採用している保健所が多いものと思われる。

⑬ HIV 検査（スクリーニング検査と確認検査）の実施設

通常検査における、スクリーニング検査の場合、自保健所での実施が 16%、他の保健所への委託が 12%、衛生研究所への委託が 40%、外部委託による検査は 30%であった。また、確認検査に関しては、衛生研究所への依頼が 68%で、外部委託は 23%であった。即日検査の場合、迅速検査の実施者は、自施設の検査職員が 65%、医師、保健師が 18%であった。

⑭ 結果説明について

結果説明の担当者（複数回答可）に関しては、陰性時には医師が41%、保健師が71%であり、迅速検査陽性時には、医師が85%、保健師が78%で、確認検査陽性時には97%とほぼ全ての施設で医師が担当し、75%では保健師も加わっていた。また、感染予防のための行動変容を働きかける相談に関しては、94%の施設において行われており、78%では全員に、20%の施設では一部を対象に行われていた。陽性者への説明に関しては、全施設の77%で説明資料を用意してあるとの回答であった。陽性者への説明のマニュアルについては67%の施設でありとの回答で昨年と比べ8%の上昇がみられた。

⑮ 特設検査相談施設における検査相談

18 箇所の特設検査相談機関での検査総数は23,318件で、陽性例は142例（0.6%）であった。これら陽性例において、受検者が陽性の確認結果を受け取りに再来所したのは132例（93%）であった。

また、この中で医療機関に受診したことが確認されている事例は112例であり、陽性結果を伝えられた132例中の85%、全陽性例中の79%であった。

⑯ HIV等の検査結果の誤通知について

平成25年には、HIV、STI検査の結果の誤通知事例が5件あったことが分かった。2件は検査結果の記入ミスにより発生したものであり、他の3件は別の受検者の結果を誤って通知してしまったものであった。検査結果の記入ミスについては、記録用紙の書式を改めるとともに、結果の記録を複数で点検するなどの改善策により再発防止を図ったとのことであった。

また、別の受検者の結果を誤って渡してしまった事例では、受検者と検査結果通知書の番号等の照合を、ダブルチェックを含め確実に行えるようシステムの見直しを図ることで誤通知の再発防止に努めているとのことであった。

⑰ 妊婦HIV検査に関する2次調査

平成24年度「保健所におけるHIV検査体制に関する全国調査」のアンケート調査に回答した保健所481施設のうち、設問2.④「H. 昨年1年間に妊婦さんからの相談事例はありましたか？」あるいは「I. 昨年1年間に妊婦さんの検査受検はありましたか？」に「ある」と回答した保健所53箇所に対して調査票を送り、34箇所（64%）から回答があった。相談のみ事例が12例、検査のみ事例が8例、相談＋検査事例が14例であった。保健所で検査相談を受けた理由としては、他の感染症に感染しているためも含め、HIV感染に対する心配によるものがその多くを占めていたが、医療機関で保健所の検査を受けるよう勧められた例も見られた。

D. まとめと考察

平成20年をピークに、その後は新型インフルエンザ、東日本大震災等の影響もあり、国民全体のHIVへの関心が下がり、保健所等におけるHIV検査相談数も平成21-22年と大きく減少したが、その後は横ばい傾向が続いており、今回の保健所アンケート調査においても検査数・陽性数ともにほぼ横ばいの状況にあることが分かった。

今回行った全国保健所アンケート調査においては、全国の保健所の協力により、対象とした579保健所等施設の85%、493施設から回答を得ることができた。

アンケート結果では、HIV検査を実施している全国493施設で、平成25年に93,408件のHIV検査が実施され、そのうち240件（0.26%）が陽性であった。陽性例のうち、224件（93%）が再来所して陽性の結果を受け取っており、185件（77%）については、その後医療機関に受診していることが保健所において確認されていることが分かった。検査数と陽性数は昨年と比べやや増加し、医療機関に繋がったことの確認ができた率は昨年の68%に比

べ9%の上昇がみられた。

また、HIV 検査相談の利便性の向上に関しては、即日検査や夜間、土日検査等受検者に利便性の高い時間帯の検査を実施している保健所等の比率がかなり高くなっており、通常検査で平日昼間のみの保健所は全体の24%と少なかった。

また、本年はHIV等の検査結果の誤通知事例が5件あったことが分かった。2件は検査結果の記入ミスであり、3件は別の受検者の結果を伝えてしまったというミスであった。

検査結果の記入ミスは、同時に並行して行っている複数検査（HIV検査、B型肝炎検査、C型肝炎検査、梅毒検査、クラミジア検査等）の記入欄の陰性・陽性の記入欄の順序が統一されていないことも発生要因の一つと考えられたため、その統一を図るとともに、結果の読み取りと記入をダブルチェックできる体制をとるなどの改善策により再発防止を図っていた。また、別の受検者の結果を渡してしまうことによるミスについては、検査結果を渡す際に受検者番号の確認を確実にを行うための体制の見直しを図ることで再発防止に努めていることが分かった。匿名検査であることから本人確認には困難を伴うことから、受検者番号や受検者本人の記載した記号・番号等を用いた確認など、受検者の本人確認には工夫が必要であり、誤通知の防止のためには検査相談に関わる担当者一人ひとりの細心の注意が必要である。

誤通知の発生は、当事者への影響とともに、HIV 検査相談事業全体への信頼に大きな影響を及ぼすため、その再発防止に向けての取り組みは、HIV 検査相談の利便性を高める取り組みと共に、極めて重要な課題である。本研究班においても、アンケート調査による実態把握を続けるとともに、情報提供やマニュアルの作成・普及を通じて、検査相談体制の充実に向けてさらに寄与できるよう努めて行きたい。

平成24年度に実施した「保健所におけるHIV検査体制に関する全国調査」のアンケート調査で妊婦のHIV検査相談があったと回答した保健所53箇所に対して、妊婦が保健所でHIVの相談・検査を受けた理由と経緯について調査をしたところ、他の感染症に感染しているためも含め、HIV感染に対する心配によるものがその多くを占めていたが、医療機関で保健所の検査を受けるよう勧められた例も見られた。妊婦は産科医療機関においてHIV検査を受ける機会があるが、HIVの感染不安から保健所での検査・相談を希望する例が少なからずあることが分かった。保健所は妊婦の場合においても、時に、その感染不安に対応するためのHIV検査相談検査施設として重要な役割を果たしていることがわかった。また、産科医療機関において、HIVスクリーニング検査やスクリーニング検査陽性後の確認検査を保健所で受けるよう妊婦に勧める事例が現在でも少数ながら存在していることも分かった。妊婦におけるHIV感染の状況や保健所及び産科医療機関における妊婦のHIV感染不安への対応については、今後ともアンケート等により状況を把握しその動向を注視していく必要があると思われた。

謝辞

保健所の様々な業務で忙しい中、アンケート調査にご協力頂いた全国の保健所等関係者の皆様方に深く感謝致します。











